

帰省の口実を奪った図書館

アディネガラ イヴオンヌ

JR京葉線海浜幕張駅から徒歩で、ホテルの側を通り、公園を抜けて、歩行者用信号を渡り、左に曲がるとちよっと先にアジア経済研究所の図書館がみえる。たぶん最寄り駅から一番の近道だと信じて、今でもそのルートを通っているが、初めて来たときは、その建物が図書館とは

れたアジア経済研究所の小島道一氏と名刺交換させていた。それがご縁で「インドネシアや東南アジアに関する資料が図書館にたくさんありますよ」と小島氏に教わったことが、冒頭のアジ研図書館通いの始まりである。

知らず、「窓の少ない大きな建物」という印象であった。なかに入って驚いたのが、中央部分の吹き抜けである。公共図書館にありがちな天井が低く、暗く、押さえつけられるような圧迫感がない。吹き抜けのおかげで均一に明るく、開架書物を探す時もタイトルが良く見え、目が疲れにくい。カウンターの係りの方の応対も実にさわやかで、日本人のおもてなしの気持ちを十分感じることができる。

アジ研図書館の素晴らしさは、本の探索時に目が疲れにくいことだけではない。館内のパソコンで、キーワードを使い書物を検索し、その書物の蔵書場所にたどり着くことが可能である。また、その際、関連書物の存在も知ることができる。インドネシア語の資料も製本化されているので、目的の資料を探しやすい。おそらく現地には残っていないだろう古い時代の資料や、日本人の方が、どうやって調査・収集されたのかと思われるような調査・収集資料や分析資料が、飽きることなくみつかり、その量には、ただただ驚くばかりである。日本語に翻訳された資料ばかりでなく、インドネシア語の資料も多数収蔵されており、アジ研図書館通いを始めてから、資料探しを理由に、インドネシアへ帰るといふ口実が使えないくらいである。実際に現在研究中のテーマに関して、多くの資料をアジ研図書館で入手(コピー機も使い倒し)している。

データにも関心がある。しかし、残念ながら、経済的な事項に比較すると見劣りがする。発展途上国では、環境問題に関する資料は、現地でさえ整っていない可能性はあるが、アジ研図書館では、現地(インドネシア)の新聞も閲覧することができるので、そのなかから、目的の記事や資料を探すことが可能であった。また、日本語の資料の記述から、ある程度の情報を得ることもできた。すなわち、どのような方法であれ、あらゆる角度から、目的のデータに近づくことが可能な資料がみつかる図書館であると思っている。私のように母国を離れ、日本で母国に関連する研究を進めている者にとって、アジ研図書館のように、一カ所で気の済むまで様々なデータを調べることができ、コピー代以外の費用がかからず資料を入手できる場所は、インドネシア国内ですら恐らく無いであろう。

現地へ赴き、資料を収集される方は、日本語ならともかく、現地語で記述された書物や資料の取捨選択は、非常に時間と労力を必要とすると思います。現在では、環境の問題も経済的に重要な意味合いを持つサブジェクトになっており、今後は、インドネシアに限らず、入手できる限り多数の国の環境に関する資料も整えていただければ、もっと充実した素晴らしい図書館になると期待している。また、同時にそうなれば、ますます帰省のチャンスが遠のくと恐れながら、アジ研図書館通いを続けている。

実は、二〇一〇年に書きあげた修士論文『インドネシアにおける独裁的体制から民主的体制への移行の環境問題への影響』の調査時や執筆時には、私はアジア経済研究所付属図書館(以下、アジ研図書館)の存在を知らなかった。当時インドネシアに関する資料収集は、インターネットでインドネシアの公共機関のデジタル化資料を探るか、現地に直接赴いて入手するか、その二つ以外の術を知らなかった。実際に、母国へ資料収集と現地調査を兼ねて帰省していた。その後、明治大学で開催された環境問題の講演会に聴衆として参加した際、講演会の講師をさ

アの経済的な事項に関する資料は、期待する資料がほぼ入手できる。私は、環境経済学の専攻なので、インドネシアの環境に関する資料や

(Yvonne Adinegara / 明治大学大学院政治経済学研究科経済学専攻)